



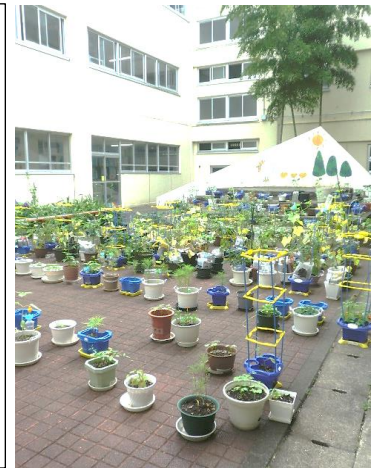
「なぜ？」「どうして？」を大切に

～「自ら考え、生き生きと学びあう子」の育成を目指して～

校長 中里 純子

運動会が終わり、子どもたちは、それぞれの学年ごとにまた新たな目当てをもって、生き生きと学校生活を送っています。1・2年生は、一人ひとり自分で選んだ野菜や植物を育てることに夢中になっています。学校の中庭には、たくさんの鉢が並び、朝の時間や中休みの時間には、水やりや観察のために多くの子どもたちがやってきます。

「私のオクラには、アリがたくさん寄ってくる。何でだろう？」
数人の子どもたちが、その子の植木鉢の周りに集まって来ました。
「あっ！アブラムシだ！葉っぱのかげにアブラムシが沢山いるよ。」
「アブラムシがいるから、アリが寄ってくるんだよ。」
「牛乳！牛乳をかければいいよ。教科書に載ってた。」
するとその中の2人がすぐにその場を離れました。しばらくすると
「校長先生、給食室の鍵が閉まっていたよ。」と残念そうに言い
に来ました。きっと、給食室でお願いすると、牛乳をすぐにもらえる
かもしれないと思い、行動したのでしょう。



ある日の中休みの子どもたち同士の数分のやり取りでしたが、私は、そこにいた子どもたちの素晴らしい力に感動していました。「なぜ？」「どうして？」の疑問をもち、既習の知識や経験を生かして考え、「何とかできないだろうか」と友達同士協力しあって、自ら行動し解決しようとする。そうした「学び」が目の前で展開されていました。

本校では、「自ら考え、生き生きと学びあう子」の育成を目指し、今年度は、算数科を通して研究を進めています。6月に入りコロナ対策を万全にしながら、第1回目の授業研究会を行いました。年間を通して、全教員が授業を公開し互いに授業を見合い、研究会の中で学び合います。その時の主語はいつも「子ども」です。「子どもは自ら考えていたか？」「子どもは生き生きとしていたか？」「子どもは互いに学び合っていたか？」また、この視点を、他教科や日常の中でも常にもって、子どもたちを育てていこうとしています。

「なぜ？」「どうして？」子どもたちが、こうした疑問をもったら、私たち大人がすぐに答えを教えるのではなく、子どもたち自身がそれを解決しようとする力を育て、解決のプロセスを大事にしていききたいものです。

現在マスクの着用をお願いしているところですが、学校においては熱中症のリスクを鑑み、必要に応じて人との距離をとって、マスクを外す指導をしています。**登下校時においても、マスクを外してもかまいません。**その際「**人との距離を十分に保つ**」「**会話を控える**」「**くしゃみや咳をする時はそで口などで口を覆う**」ことを学校でも指導していますが、改めてお子さんにお話しいただき、行動できるようご支援ください。また、併せて登下校時は帽子をかぶり、日差しを避けるよう声がけをお願いいたします。